

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービス るぼろ太田			
○保護者評価実施期間	令和7年9月16日 ~ 令和7年10月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数)	32
○従業者評価実施期間	令和7年9月16日 ~ 令和7年10月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月11日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者と顔を合わせる機会が多く、密に情報共有をすることで、一緒に課題を確認しやすい。	利用終了後に時間を持って子どもの引継ぎをするとともに、連絡ノートでの質問や近況について話をするようしている。毎月のるぼろ便りなど必要なことはメールで情報掲載を行っている（日々の予定、研修会等の案内など。）	今後も保護者や子ども達の思い・意見を丁寧に聞き取りながら、個別支援計画に結びつけ、日々の支援に取り入れていく。
2	子ども達の主体性を尊重し、やりたいと思うことを一緒に準備するところから行い、日々の暮らしに繋がる活動を保障できている。	自分で決めたことを実現できるように、また最後までやり遂げができるように、職員は補佐役に徹しながら、子どもの力を引き出す支援を行っている。	個別対応の利点を最大限に活かし、子どもの失敗経験も次に活かせるよう、個々に必要な支援方法を職員全体で検討し実践していく。
3	同法人のこども発達さぼーとセンターるぼろ、相談支援事業所あゆうとと連携し、家庭や学校、地域での子どもの様子を知ることができる。	ケース会議や担当者会議、日々の連絡等で情報共有を行い、放課後デイだけでなく生活全般を視野に入れた支援を行っている。	小学校から中学校、支援学校等への進学やサービス移行後も継続して連携を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の構造上、活動的に動くスペースが少ない。	活動室と運動室に分けている、必要に応じて机の移動等を行い活動スペースは確保に努めている。運動室にトランポリンやランニングマシーン等の運動器具を設置しているため、十分に動ける活動が保障できていない。	活動的な遊びについては地域の公園等に出かけたり、地域の情報を得ながら公共の場（児童センター・図書館・体育館等）に出かけたりして、利用の仕方を学ぶ機会とする。
2	利用回数が月2回、週1回の子どもが多いため、欠席が続くと、継続した支援の積み重ねが難しい。	他の事業所と併用しているため、利用日を増やすことが困難である。	事前欠席者がいる場合、希望者にスポット利用を声かけ、可能な範囲で回数を確保していく。 年齢が低い児など積み重ねが必要な児には、複数回利用を提案するなど丁寧な対応を心掛ける。
3	送迎の要望に十分対応できていない。	送迎範囲が広すぎると到着までに時間がかかり、活動時間が保障できないため、迎えは町内小学校に限定している。また、保護者との情報共有を大切にするため、利用終了時は事業所まで送迎をお願いしている。	送迎ニーズを捉え、応えることができるよう方策を具体化させる。 支援前延長、支援後延長などニーズに応じた対応を心掛ける。